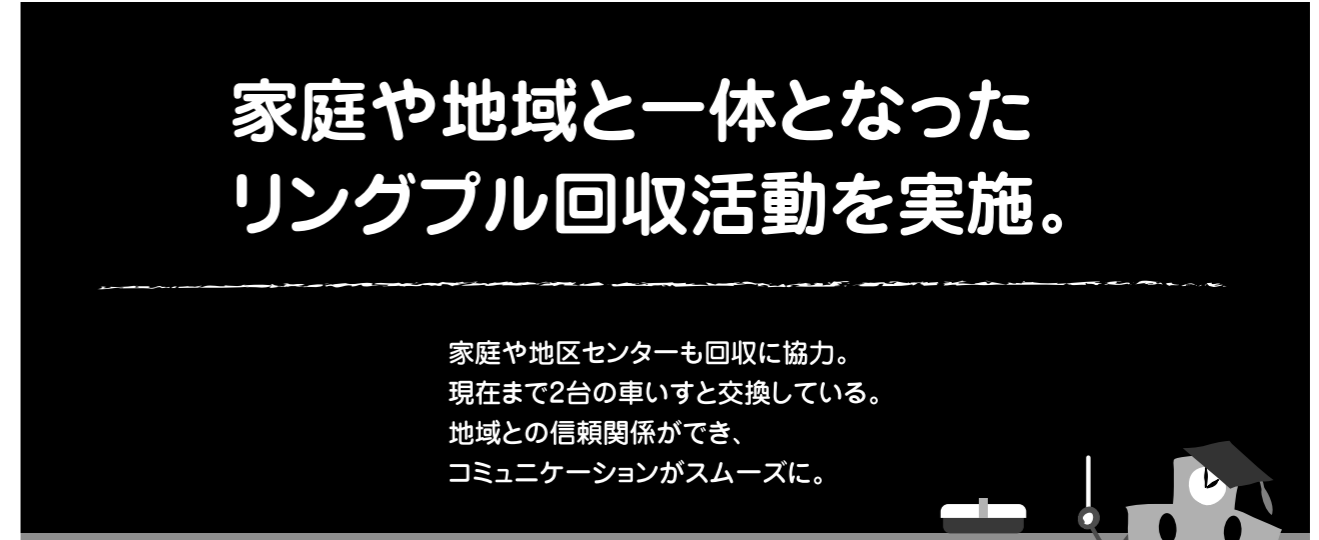
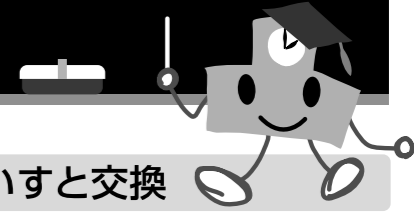


小学校の事例 東区 栄町小学校



家庭や地域と一体となった リングプル回収活動を実施。

家庭や地区センターも回収に協力。
現在まで2台の車いすと交換している。
地域との信頼関係ができ、
コミュニケーションがスムーズに。



活動 家庭や地域を含めた活動を実施し 2台の車いすと交換

10年以上前から、リングプルを集めて車いすに交換する活動を実施。学校で集計日を設けて、まとまったら業者に回収してもらっている。栄地区センターにも回収ボックスを設置しており、学校だよりを発行し、家庭や地域への啓発を行い理解と協力を得ている。平成18年春には車いす1台と交換し、新道東駅に寄贈（その様子が新聞に掲載されたことがある）。

また、平成22年夏に2台目の車いすに交換し、現在寄贈先を検討中である。単に寄贈するだけでなく、別の活用方法についても検討している。例えば、5年生の総合的な学習の時間に、実際に車いすに触れたり、リングプルは収集されたのち、様々な製品として生まれ変わっていることなどを学習し、環境教育に生かしていきたいと考えている。

効果 環境保全活動を地域とのコミュニケーションツールに

放送で収集への協力を呼びかけるなど、積極的に取り組んでいる。学校だよりによって、保護者からの協力も得られ、地域との交流が生まれてきている。回収したリングプルは、計量してグラフとして掲載、競争心をもつことで、より意識が高まっている。日頃からこのような活動を通して、地域とのコミュニケーションを

図ることで、地域の協力をますます得られやすくなっている。



「リングプル収集のグラフ」と交換された「車いす」

今後 中学校との連携で さらに継続的な活動に

生徒会与児童会が一緒になって収集に取り組むなど、中学校に行っても活動を継続していけるような連携体制がとれたらよいと考えている。また、ソーラーパネルを利用して地域の方も参加できるような活動をしたいと思っているが、学校予算では難しいので、助成などで設置できる機会があれば取り入れたい。そして、子供たちの視野を広げる

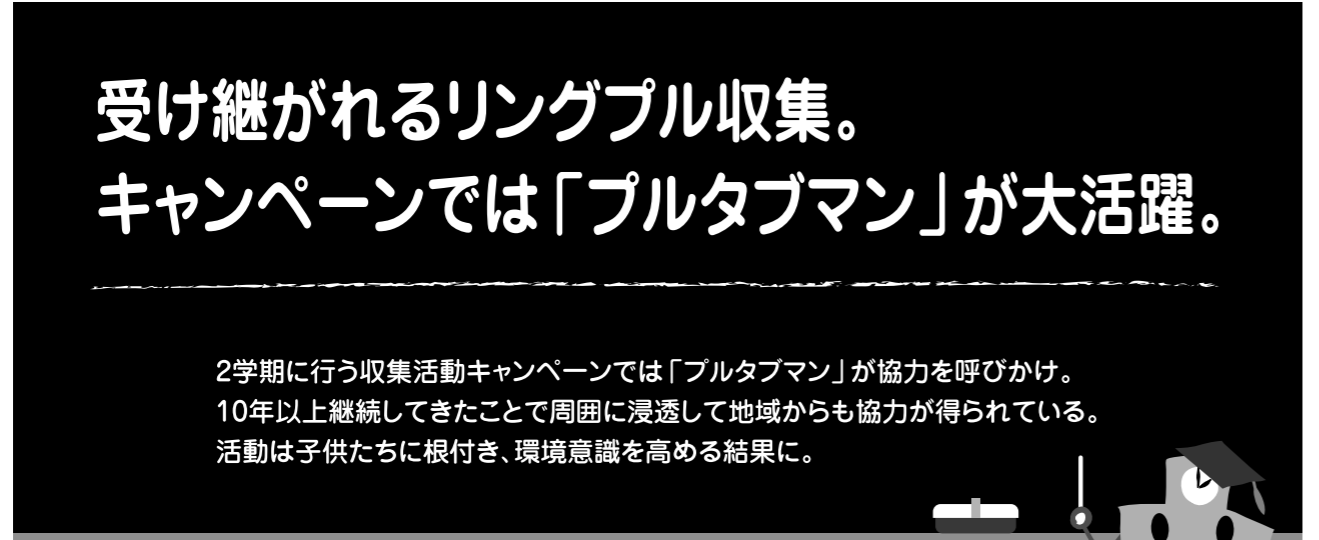
ためにも、専門家の出前授業を増やしたいと考えている。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

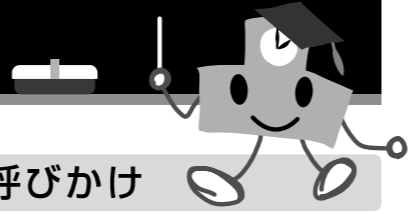
授業中の校外学習で地域の施設を訪問したり、探検することがあります。その際に、自然と地域との交流が生まれ、子どもの顔や担任の顔を覚えてもらうことができ、それ以降の交流が行いやすくなっています。日頃から地域との交流の機会をもち、信頼関係を築くことで、リングプル回収の協力も円滑に得られていると思います。

小学校の事例 東区 東光小学校



受け継がれるリングプル収集。 キャンペーンでは「プルタブマン」が大活躍。

2学期に行う収集活動キャンペーンでは「プルタブマン」が協力を呼びかけ。10年以上継続してきたことで周囲に浸透して地域からも協力が得られている。活動は子供たちに根付き、環境意識を高める結果に。



内容 児童会書記局が「プルタブマン」になって呼びかけ

本校では10年以上前からリングプルの収集活動を行っている。児童会書記局ではオリジナルのキャラクター「プルタブマン」を作っており、そのキャラクターにはお面や衣装もある。2学期にはそれらを活用した「収集活動キャンペーン」を実施。キャンペーンの内容としては事前に児童会でポスターを作成し、学校内の廊下や水飲み場に掲示する。またキャンペーン期間中は登校時間にあわせて、「プルタブマン」の衣装とお面をつけた書記局の児童が、登校してくる児童に玄関で収集の協力を呼びかけている。

を用いることで、児童の興味を引きやすく親しみやすい活動となっている。



オリジナルキャラクター「プルタブマン」

ただ収集を呼びかけるだけではなくキャラクター

今後 伝統のリングプル収集を継続し 環境意識を高める活動に

リングプル収集は伝統的に受け継がれている活動であり、子供たちに根付いたものとなっている。それにより環境に対する関心も高まっている。

環境への意識をより高めることができるものにしていきたい。

収集の呼びかけは校内だけで行っているが、長く活動していることから各家庭にも浸透している。さらに地域の方はもちろん学校の耐震工事を行っていた際には業者の人たちも、学校でリングプルを集めている事を知って持参してくれた。



「プルタブマン」にリングプルを渡す児童

今後も車いすとの交換を目指して収集を継続するとともに、活動をとおして子供たちの

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

子供たちが将来大人になった時、「環境に関する行動を起こす『きっかけ(土台)』」となるような活動にすることが大切だと考えています。そして「環境に対する意識をもった生活ができる」人に成長してくれることを望んでいます。